

「認知症ガイドブック改訂2版」について（案）

1 目的

練馬区における認知症ケアパス（認知症の人の状態に応じた適切なサービス提供の流れ）や相談機関、支援サービス等を区民に対してわかりやすく示し、認知症とともに安心して暮らせる方策について啓発を図る。

2 主な対象

認知症の早期発見・早期対応の対象となる前期高齢者および家族等

3 発行部数

初版（平成28年3月）	3万3千部
改訂版（平成30年4月）	1万部
改訂2版（令和2年3月）	1万部（予定）

4 配布（周知方法）

- ・区立施設等
- ・医師会、薬剤師会等
- ・居宅介護支援事業所

5 仕様

A4判 中綴じ 20頁（現行と同じ） 再生マットコート紙 オールカラー

6 改訂内容（案）

裏面参照

7 今後のスケジュール

年度	月	作業内容
元	5月	第1回専門部会 改訂についての意見聴取
	10月	第2回専門部会 改訂案の検討
	1月	第3回専門部会 最終案の確認
	2月	発注、校正、印刷、配布に向けた準備
	3月	配布

改訂内容(案)

1 改訂趣旨

現行版の内容はそのままに、新たに項目を付け加えるものとし、イラストの精選・縮小、既存項目の組換え等により対応する。

2 付加項目

以下の3項目を付け加える。

仕事と介護の両立(パンフレットの紹介)

介護を理由に仕事を辞める「介護離職」は、全国で毎年約10万人いると言われており、「練馬区在宅介護実態調査」においても、就労している介護家族の約2割が就労継続について継続の困難を感じており、特に認知症状の対応に不安を感じている。

以上の背景から、区が平成31年4月に発行した「仕事と介護の両立パンフレット」を紹介する。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング) 愛称:人生会議

自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」に関しては、平成30年3月に厚生労働省のガイドラインが改訂されたところである。

認知症においては、比較的早期に本人の判断力が低下することが多く、なるべく早いうちからACPが行われることが望ましいので、啓発記事(コラム)を掲載する。

認知症の初期の方々への助言

認知症と診断されてから介護保険サービスの利用が始まるまでの期間は、平均1年5か月とされている(認知症介護研究・研修仙台センター)。この期間を不安や葛藤を抱えながら生活することとなる本人・家族に向けて、将来について過度に悲観することなく、適切な支援を受けながら過ごすための要点について、コラムで紹介する。

N-impro(ニンプロ)

区と東京大学が協働で開発した、コンビニ等を対象としたカードゲーム形式の研修プログラムN-impro(ニンプロ)については、今年度から区の事業として展開することとなった。

認知症サポーター養成講座とともに、認知症の人への理解を深め、住民が主体的に地域づくりに参加するツールのひとつとして、活用を促進する取組みについて紹介する。